



点検不備に係る再発防止対策の実施状況・評価ほか

2023年2月16日
中国電力株式会社

1.	点検不備問題の根本原因に対する再発防止対策	P 2
2.	原子力部門の業務運営の仕組み強化状況	P 3
3.	不適合管理プロセスの運用状況	P 6
4.	原子力安全文化醸成活動の推進	P 11
5.	内部監査による再発防止対策の実施状況評価	P 33
6.	監視・評価の強化に係る活動の状況および概略	P 35

1. 根本原因に対する再発防止対策

○ 原子力部門の業務運営の仕組み強化

国の検査制度変更など、規制要求等の状況変化に速やかに対応し、適切に管理できる仕組みを強化する。

〔主要施策〕

1. 原子力部門戦略会議の設置
2. 原子力安全情報検討会の設置
3. 部制の導入

③

○ 不適合管理プロセスの改善

不適合管理が適切、確実に行われ、また不適合の判断が限られた箇所で決定されること等がないよう、不適合管理プロセスを改善する。

〔主要施策〕

1. 不適合判定検討会の設置
2. 不適合管理を専任で行う担当の設置
3. 不適合管理の必要性や基準に関する教育の実施

⑥

○ 原子力安全文化醸成活動の推進

経営における原子力の重要性や地域社会の視点に立った安全文化の大切さを全社(関係会社・協力会社を含む)で醸成する活動を推進する。

〔主要施策〕

1. 原子力強化プロジェクトを主体とした安全文化醸成活動の推進
2. 原子力安全文化有識者会議の提言を踏まえた安全文化醸成施策の検討
3. 原子力安全文化の日の制定

2. 原子力部門の業務運営の仕組み強化状況

2-1. 原子力部門の業務運営の仕組み強化状況

発電所

部制の導入による統括機能強化〔2010.9.7 設置〕

原子力部門戦略会議

〔2010.7.27 設置〕

- 機能
原子力部門の課題を統括し、検査制度変更等に対応するための全体計画を策定
- 構成員
・本社部長、マネージャー
・発電所長、部長、課長ほか
- 2022年9月～2023年1月の活動実績
2回(2022.10.17、2023.1.16)

原子力安全情報検討会

〔2010.7.30 設置〕

- 機能
本社、発電所からなる検討会で、個別の検討課題に連携して対応
- 構成員
・本社マネージャー、副長
・発電所課長、副長ほか
- 2022年9月～2023年1月の活動実績
2回(2022.10.11、12.21)

活動状況報告

規制要求



活動状況報告

本社

経営層

原子力部門戦略会議での審議内容

- 原子力安全情報検討会の活動状況
- パフォーマンス指標(PI)の検討状況
- 点検不備問題の再発防止対策アクションプラン進捗状況
- サイトバンカ建物未巡視問題の再発防止対策アクションプラン進捗状況
- 原子力部門戦略会議重要課題 進捗状況報告

原子力安全情報検討会での審議内容(原子力部門戦略会議へ報告)

- 原子力安全情報 処理状況確認

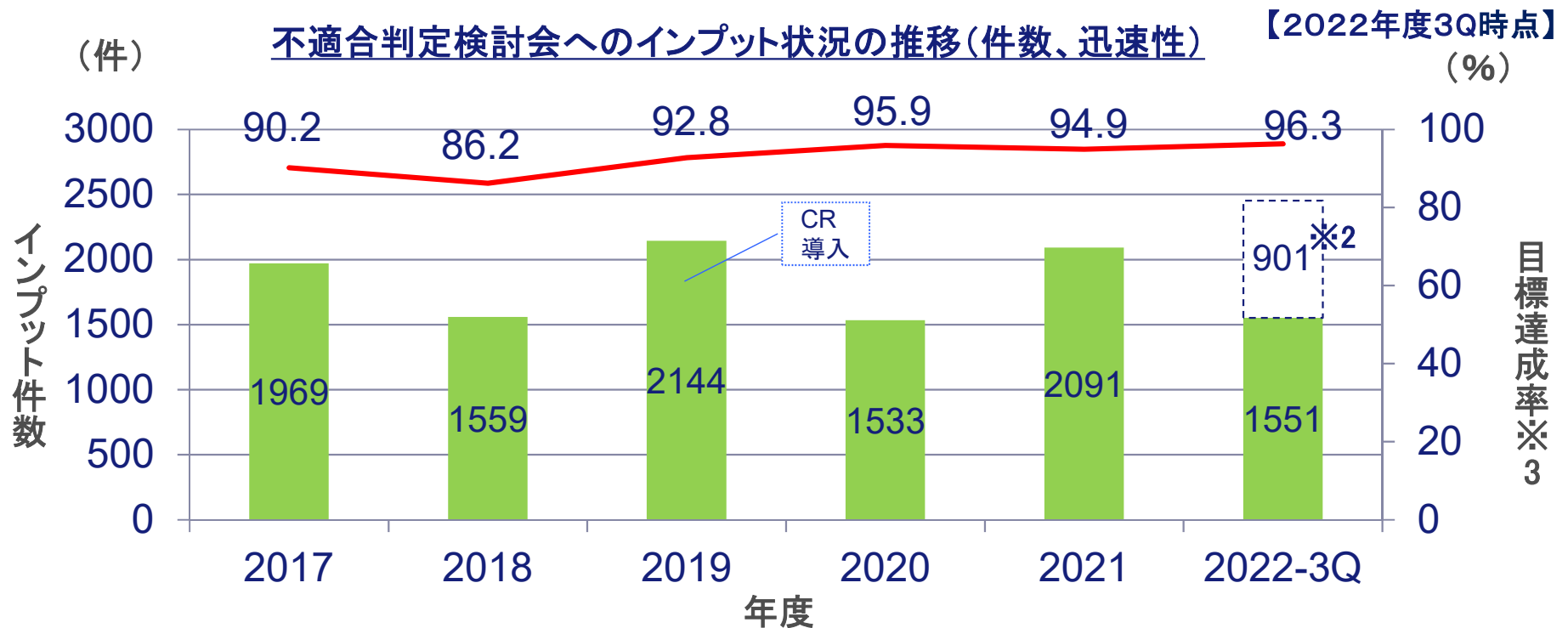
3. 不適合管理プロセスの運用状況

3-1. 不適合管理プロセスの運用状況(状態報告の収集状況) ⑦

- ◆2019年度より、気づきや徴候といった幅広い情報を状態報告(CR※¹)としてインプットするしくみを導入。
- ◆2022年度のインプット件数(ピアレビューによる気づき 901件※² 除く)は、例年のペースで推移している。
- ◆情報は速やかにインプットされており、プロセスは適切に運用されている。

※1: Condition Reportの略で、不適合と思われる事象に限らず、顕在化していない懸念段階の事項も含む。

※2: 原子力の業務経験豊富な他社専門家(ピア)による、業界のエクセレンスに照らしたレビューによる気づき。



■ インプット件数

— インプットまでの期間(目標達成率※3)

※3: CRを目標期限までにインプットする達成率を表す。目標は以下のとおり。

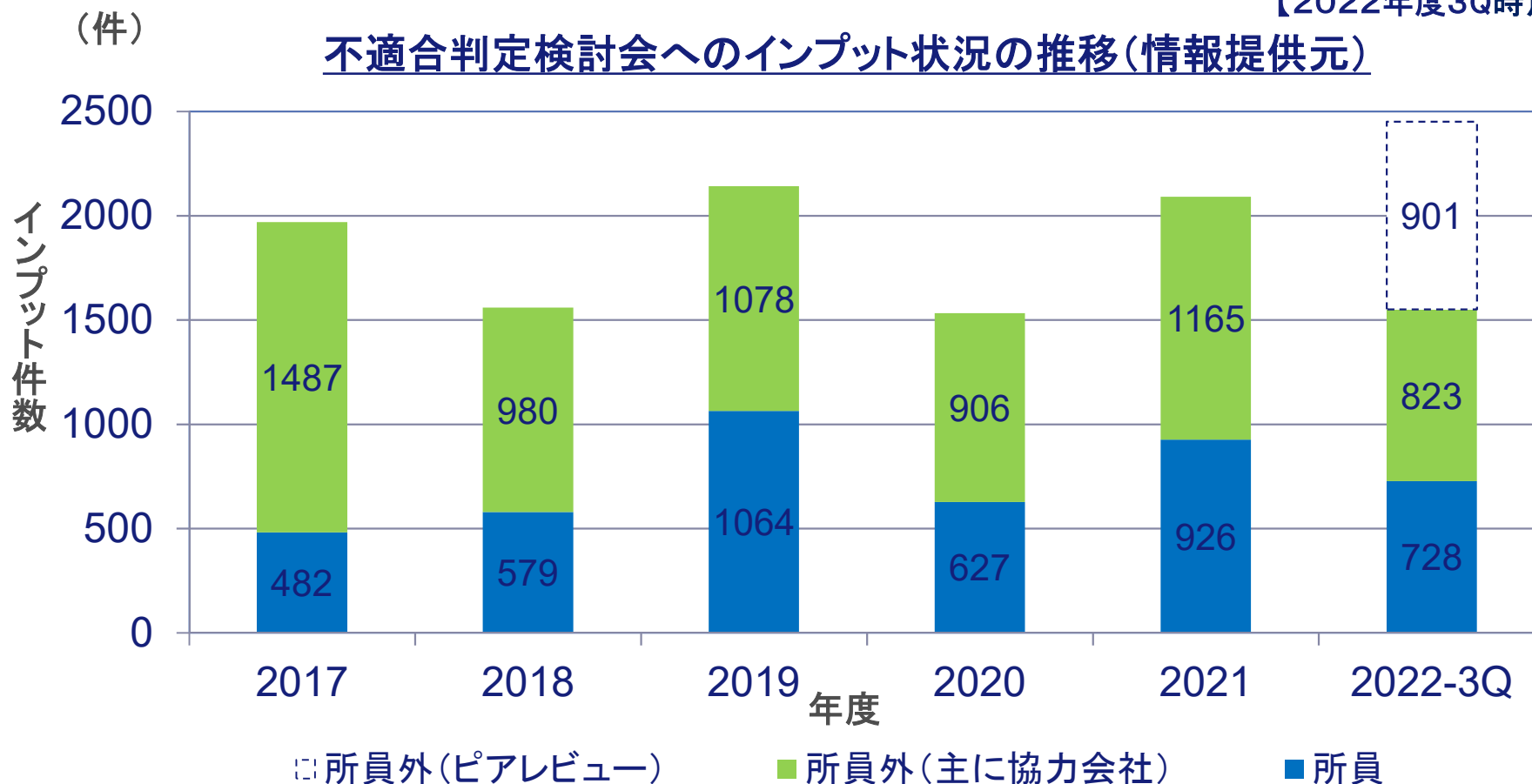
2018年度まで: 所員は3営業日以内、所員外は5営業日以内

2019年度以降: 所員は2営業日以内、所員外は4営業日以内

3-2. 不適合管理プロセスの運用状況(情報提供元)

- ◆ CRインプット件数の情報提供元の内訳(所員、所員外)を示す。
- ◆ 協力会社からの気づき・意見をより多く収集するため、工事だけでなく委託業務に係る気づき事項や意見交換会等で得られた懸案・改善要望事項をCR登録する仕組みを2021年1月から運用し、コンスタントに情報は上がってきている。

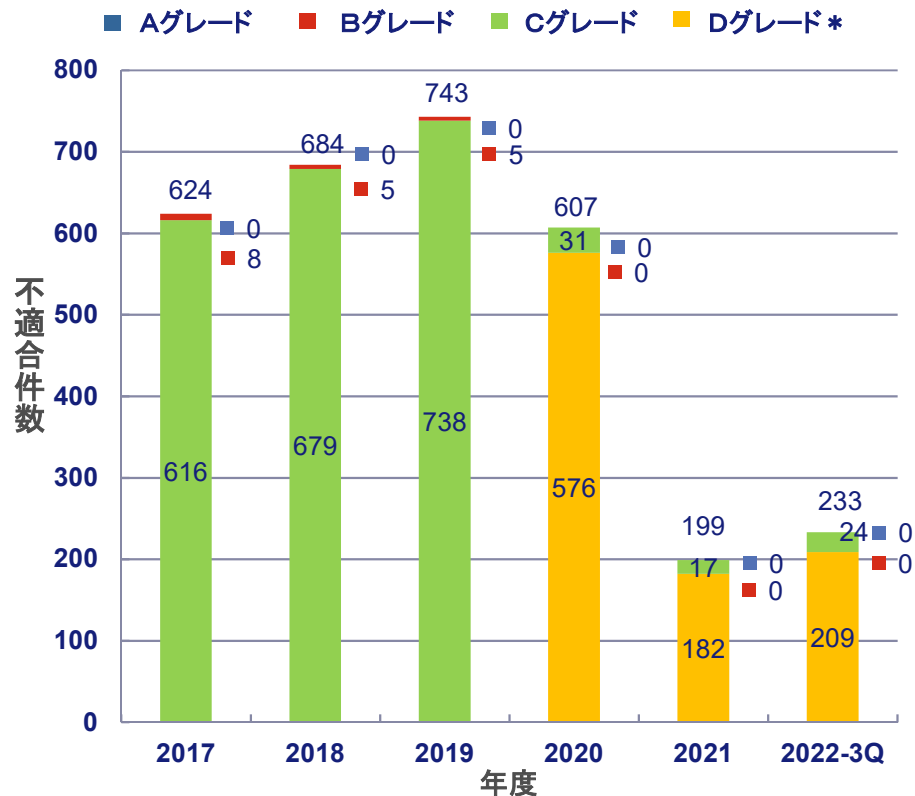
【2022年度3Q時点】



3-3. 不適合管理プロセスの運用状況(発生・処置状況)

- ◆不適合件数は点検作業の状況等により増減しているが、重要な不適合(A、Bグレード)の発生は少ない。(2020年度以降A、Bグレードの発生はない)
- ◆発生した不適合に対しては、着実に処置が実施されている。

不適合発生件数の推移



* 2020年4月、不適合グレードの見直しを行い、A~Dグレードとしている。



不適合処置状況

【2022年度3Q時点】

上段: 年度の不適合発生件数
下段: 現時点での不適合処置完了率

年度	A	B	C	D
2022-3Q	0 (-)	0 (-)	24 (54%)	209 (58%)
2021	0 (-)	0 (-)	17 (94%)	182 (91%)
2020	0 (-)	0 (-)	31 (97%)	576 (95%)
2019	0 (-)	5 (100%)	738 (97%)	—
2018	0 (-)	5 (100%)	679 (98%)	—
2017	0 (-)	8 (100%)	616 (90%)	—

(注) 処置未完了の主な理由:

発電所が運転中でないと完了確認できないものや、新規規制基準への対応のため、検討期間を要している案件がある。

参考. 不適合グレード(例)

原子炉施設の設備・機器における不具合事象および人的不適合事象を、原子力安全に対する影響により、重要度が高い順にA、B、C、Dにグレード分け

グレード	A	B	C	D
事象例 (分野別)	原子力安全に対する影響が大きい事象	原子力安全に対する影響が比較的大きい事象	原子力安全に対する影響が軽微な事象	原子力安全に対する影響がない事象
法令	建設管理業務、原子力安全に影響を及ぼす法令違反の繰り返し発生	建設管理業務、原子力安全に影響を及ぼす法令違反	建設管理業務、原子力安全に影響を及ぼさない法令違反	建設管理業務、原子力安全に関連しない範囲の不適合
設備	クラス1、2に該当する系統、機器の機能喪失(モード移行が必要となった場合)	クラス1、2に該当する系統、機器の機能喪失	クラス1、2に該当する系統、機器の機能喪失に至る前に計画外の修理または補修が必要な場合	原子力安全に影響しない系統、機器等の故障
QMS	品質マネジメントシステムが破綻している場合	品管規則の条文に適合しない場合	品管規則の遵守に影響を与えることが否定できない場合	品管規則の遵守に直接関連しないQMS内の不適合
処置	不適合事象に対する処置の実施に加えて、原因分析、再発防止対策を実施する。		不適合事象に対する処置を実施する。	

注1) 不適合に対し原子力安全への影響に応じた効果的な活動を実施するため、2020年4月1日から従来のCグレードを分割し、「原子力安全に対する影響が軽微な事象」をCグレード、「影響がない事象」をDグレードとして管理している。

注2) クラス1：合理的に達成し得る最高度の信頼性を確保する必要があるもの、クラス2：高度の信頼性を確保する必要があるもの

注3) 品管規則：原子力施設の保安のための業務に係る品質管理に必要な体制の基準に関する規則
(令和二年原子力規制委員会規則第二号)

4. 原子力安全文化醸成活動の推進

4-1. 原子力安全文化醸成に関する再発防止対策の進捗状況 (2/3)

2022年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<p>3. 「原子力安全文化の日」を中心に、安全文化の全社共有および再確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子力安全文化の日 協力会社への社長訓話動画配布 (社内には動画配信し、未参加者は視聴) 			▼ 6/3 社長メッセージ発信等 動画の視聴									
<p>4. 適切な発注業務管理の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 適切な発注業務(請負)に係る教育 発注者としての管理責任(委託管理)に関する教育 請負者に対する適切な受注業務要請 								教育 教育				
<p>5. 「原子力安全文化醸成計画」に統合し実施する施策他</p> <ul style="list-style-type: none"> 役員と発電所員、本社社員の意見交換(年4回) 安全文化講演会(研修会) 			▼フォロー 状況確認			▼フォロー 状況確認		▼11/1 ▼11/24				
<p>6. 協力会社への安全文化醸成の関与</p> <ul style="list-style-type: none"> 協力会社に対する表彰の実施 当社役員と協力会社社員との対話活動(年2回) 												
								▼11/21 ▼11/24				

4-1. 原子力安全文化醸成に関する再発防止対策の進捗状況 (3/3)

2022年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
有効性評価・次年度計画					中間評価			有効性評価・次年度計画				
原子力安全文化有識者会議							▼ 10/14				▼ 2/16	

4-2. 各再発防止対策の実施状況

15

a. 事例研修(適切な発注業務(請負)等に係る教育を含む)

- 「低レベル放射性廃棄物のモルタル充填に用いる流量計問題(LLW流量計問題)」および「サイトバンカ巡視業務未実施事案(サイトバンカ事案)」を振り返り、問題点の理解徹底と風化防止を図った。
- また、事例研修に併せて、「適切な発注業務(請負)に係る教育」および「発注者としての管理責任(委託管理)に関する教育」を実施した。

実施期間	2022年11月1日～11月30日
実施概要	<p>【実施方法】</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 研修資料を職場会議等において全員で確認したり、各自が個別に確認する等、各職場の状況に応じて実施。 <p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 全社コンプライアンス強調月間資料「過去の不適切事案概要(音声付き資料)」の視聴に加え、LLW流量計問題およびサイトバンカ事案に係る再発防止対策の具体的内容の再確認を全員が実施。 ⇒所属長は、所属員全員が事例研修を実施したこと、またLLW流量計問題およびサイトバンカ事案の問題点を理解したことを確認。➤ LLW流量計問題については、事例の振り返りとともに、適切な発注業務(請負)に係る留意事項の再周知(補足資料の確認)を実施。➤ サイトバンカ事案については、事例の振り返りとともに、発注者としての管理責任(委託管理)に係る留意事項の再周知(補足資料の確認)を実施。

4-2. 各再発防止対策の実施状況

b. グループ行動基準の振り返り

- グループ行動基準について、中間振り返りを実施した。

実施期間	2022年10月28日～12月23日			
実施概要	➤ 各職場において、今年度策定した「グループ行動基準」を常に意識し、業務に取り組む姿勢に活かしているかについて、話し合いにより振り返りを実施。 (グループ行動基準の策定期間:2022年4月11日～5月25日)			
アンケート結果				
<p>【設問】グループ行動基準は、あなたやあなたの担当の「報告する文化」「常に問いかける姿勢」の浸透・定着にとって役立っていると思いますか。</p> <p>■ 「役立っている」という肯定的回答(「そう思う」、「ややそう思う」)が全体の95.2%となった。 N=500 [回答率:95%]</p> <p>■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない</p> <table border="1"><tr><td>59.0%</td><td>36.2%</td><td>4.8%</td></tr></table>	59.0%	36.2%	4.8%	<p>《選択理由(抜粋)》</p> <ul style="list-style-type: none">■ グループ行動基準のとおり行動することで、「報告する文化」「常に問いかける姿勢」を意識することに繋がっている。■ グループ行動基準を日々の作業予定表に記載しており、それを定期的に確認することで行動基準を設定した経緯等を考える機会になっている。■ 現在の職場の業務に即した内容で行動基準を立てているため、役立っている。 <p style="text-align: right;">等</p>
59.0%	36.2%	4.8%		

- 設問に対し、「役立っている」という肯定的回答が95.2%となったことから、グループ行動基準の策定・実践は有効であったと評価する。
- アンケートの少数意見は各所属長へフィードバックし、今後の業務運営の参考とする。

4-2. 各再発防止対策の実施状況

17

c. コンプライアンス行動基準の振り返り

■ コンプライアンス行動基準について、中間振り返りを実施した。

実施期間	2022年10月28日～12月23日										
実施概要	➤ コンプライアンス意識高揚を目的とした「島根原子力発電所共通のコンプライアンス行動基準」を常に意識し、業務に取り組む姿勢に活かしているかについて、話し合いにより振り返りを実施。										
アンケート結果											
<p>【設問】あなたは、コンプライアンス行動基準があなたやあなたの課(部)のコンプライアンス意識高揚に役立っていると思いますか。</p> <p>■ 「役立っている」という肯定的回答(「そう思う」、「ややそう思う」)が全体の92.4%となった。 N=500 [回答率:95%]</p> <p>■ そう思う ■ ややそう思う □ あまりそう思わない □ そう思わない</p> <table border="1"><thead><tr><th>回答</th><th>割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>そう思う</td><td>53.0%</td></tr><tr><td>ややそう思う</td><td>39.4%</td></tr><tr><td>あまりそう思わない</td><td>7.4%</td></tr><tr><td>そう思わない</td><td>0%</td></tr></tbody></table>	回答	割合	そう思う	53.0%	ややそう思う	39.4%	あまりそう思わない	7.4%	そう思わない	0%	<p>《選択理由(抜粋)》</p> <ul style="list-style-type: none">■ 「地域からの信頼あってこそその発電所」という言葉を聞くと気が引き締まる思いがするため、役立っていると思う。■ 発電所共通の行動基準を設けることで一つの明確な指針ができていると考える。■ 具体的に行動基準として定めてあることで、自らの行動が基準に沿っているか見つめなおすことができるため。 <p style="text-align: right;">等</p>
回答	割合										
そう思う	53.0%										
ややそう思う	39.4%										
あまりそう思わない	7.4%										
そう思わない	0%										

- 設問に対し、「役立っている」という肯定的回答が92.4%となったことから、コンプライアンス行動基準の実践は有効であったと評価する。
- アンケートの少数意見は各所属長へフィードバックし、今後の業務運営の参考とする。

4-2. 各再発防止対策の実施状況

c. コンプライアンス行動基準の振り返り(参考)

- 島根原子力発電所2号機の再稼働に向け、引き続き地域の皆さまから信頼していただけるよう発電所一体で取り組む必要があることから、コンプライアンス意識の高揚を目的とした発電所共通のコンプライアンス行動基準を実践中。

周知日	2022年4月11日
内容	<p>「地域・社会からの信頼あってこそその原子力発電所(地域からの信頼が第一)」であることを肝に銘じ、</p> <ul style="list-style-type: none">① <u>発電所を安全に運転・管理するため、自ら定めたルールを必ず守ります。</u> (自ら定めたルールを守ります)② <u>直面する仕事を常に自分事として捉え、主体性を持って取り組みます。</u> (主体性を持って仕事に取り組みます)③ <u>積極的にコミュニケーションを図り、互いに協力して活動します。</u> (積極的にコミュニケーションを図ります)
その他	<p>➤ 本行動基準について、グループ(副長単位で構成)での実践・振り返りを行う。 ※課長は、個人で実践・振り返りを行う(いずれかのグループへの参加も可)。</p>

4-2. 各再発防止対策の実施状況

d. お客様視点の価値観を認識する機会の拡大(1/2)

- 新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、管理職による呼びかけ等により、「全員参加」の目標達成に向けて可能な範囲で取り組みを進めている。
- 今年度は各種地元行事の再開に伴い、参加者数が前年度から増加した。

施策名		2010 (開始時)	2017	2018	2019	2020	2021	2022 (1月末)
地元行事への参加		106	547	592	570	44	114	334
定例訪問等への同行		107	44	36	33	0	142	149
見学会等の 対応・同席	見学会	63	48	48	48	0	0	0
	社外会議等	—	49	16	14	3	62	3
社会貢献活動への参加		41	154	181	134	67	150	151
合計		317	842	873	799	114	468	637



(一矢進入道路・一矢川除草活動の様子)

4-2. 各再発防止対策の実施状況

d. お客様視点の価値観を認識する機会の拡大 (2/2)

20

- 施策実施後の参加者アンケートでは、「お客さまと接する機会として、本活動の必要性を感じた」といった感想が多く挙げられ、社員の意識高揚につながっている。
- 施策を通して得たお客さまからのご意見や参加時の感想等については、職場内で共有を図っている。

実施施策	主な感想
定例訪問等への同行	<ul style="list-style-type: none">■ やはり明るいあいさつが大事と感じた。マスクをしているが、笑顔で話しかけると笑顔で対応していただける。■ 地元へ発電所員が出向いて、発電所のある地域を知ることは大事な良い機会だと思う。■ 発電所で働く者にとって重要な活動であるので、状況が許す限り今後も継続してほしい。
社会貢献活動への参加	<ul style="list-style-type: none">■ 活動に参加して達成感や感謝されることへの喜びを感じることができ、参加してよかった。■ 地域の方と接することが少ない部署なので、地域の方と対話できるこの活動は続けてほしい。■ 地域のお客さまとふれ合い、対話し、日頃の感謝を伝えるよい機会である。
社外会議等の同席	<ul style="list-style-type: none">■ 広報担当者が地元の方々と話しているのを見て、地域とのつながりや再稼働への期待等を改めて感じ、より一層、日々の業務に真摯に取り組まなければならないと思った。



(介護老人福祉施設の
清掃奉仕活動の様子)

4-2. 各再発防止対策の実施状況

e. 協力会社に対する表彰の実施

- サイトバンカ事案を踏まえた「協力会社と一体となった取り組み」の一つとして、協力会社も対象として表彰を積極的に実施することで、協力会社における安全文化意識の更なる浸透や協力会社社員のモチベーションの維持・向上を図っている。

表彰実績(2022年度下期)

1	表彰日	2022年12月21日、23日および28日〔表彰先 4社〕
	表彰理由	島根原子力発電所の運営に対する貢献 (通勤および構内移動時のバス等の長年にわたる安全運行)
(参考) 上期の表彰事案		・2号機非常用ディーゼル発電設備 24時間運転試験等への確実な対応 ・屋内作業における無災害(熱中症予防)の継続

(表彰式の様子)



4-2. 各再発防止対策の実施状況

(参考) 協力会社を含めた親睦行事の実施

22

- 発電所一体となったコミュニケーション促進を目的として、協力会社とともに親睦行事(ミニ運動会)を実施した。

《ミニ運動会 実施概要》

- ・実施期間：2022年10月22日(土)
- ・参加者：合計441名(うち子ども47名)
【内訳】発電所員165名、協力会社276名



4-2. 各再発防止対策の実施状況

f. 2022年度に実施したその他施策の評価・今後の取り組み

- 第28回有識者会議で実施状況を報告した施策等に関する評価と今後の取り組みは次のとおり。

	実施概要等	2022年度評価・今後の取り組み
職場話し合い研修 (2022年4～5月実施)	<ul style="list-style-type: none"> ・サイトバンカ事案の発生原因である「常に問いかける姿勢の意識不足」や「協力会社とのコミュニケーション不足」に関し、「自分たちの職場や日々の業務に同様の問題はないか」等について、副長以下の担当単位で話し合いを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修後アンケートでは、「『常に問いかける姿勢』をもって業務を行うことの重要性が理解できた」、「協力会社とのコミュニケーションの必要性を理解することができた」との回答が、いずれも全体の約98%となり、再発防止対策の活動として有効であった。 ・安全文化醸成に資する施策として実施方法やテーマを工夫しながら、次年度以降も継続実施する。
原子力安全文化の日 (2022年6月3日実施)	<p>【全社行事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社長メッセージ発信 ・安全文化意識の全社共有 <p>【発電所行事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社長訓話(行事に参加できない当社および協力会社社員は、動画を後日視聴) ・「誓いの鐘」の鐘打 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・点検不備問題の反省と教訓を風化させることなく、安全文化の大切さを当社社員と発電所構内協力会社社員が一体となって再確認するための重要な行事であり、継続実施する。 ・協力会社への社長訓話動画の配布・視聴は、次年度以降も継続実施する。

<アンケートの実施概要>

対象者	原子力関係組織の部所長以下全員(797人※)、回答率99.6%
調査期間	2022年11月15日～11月29日
調査方法	アンケートシステムにて回答、集計(匿名性は確保)

※うち発電所: 474人

【補足】

「原子力安全文化醸成に向けた取り組み」の原子力安全文化アンケートのうち、再発防止対策に関わる設問(8問)を抜粋して評価した。

- 評価の視点
 - a. コンプライアンス意識
 - b. 「地域に対し一人ひとりが約束を果たし続ける」意識
 - c. 報告する文化
 - d. 常に問いかける姿勢
 - e. 再発防止対策の定着

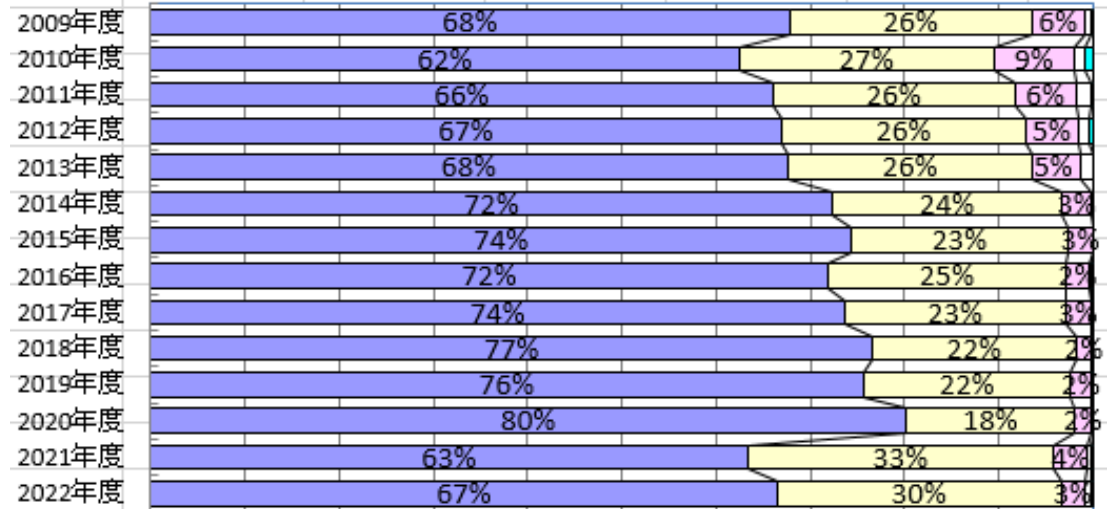
4-3. アンケートによる評価

「コンプライアンス意識」に関するアンケート結果

[凡例] ■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらとも ■ あまり思わず ■ 思わない

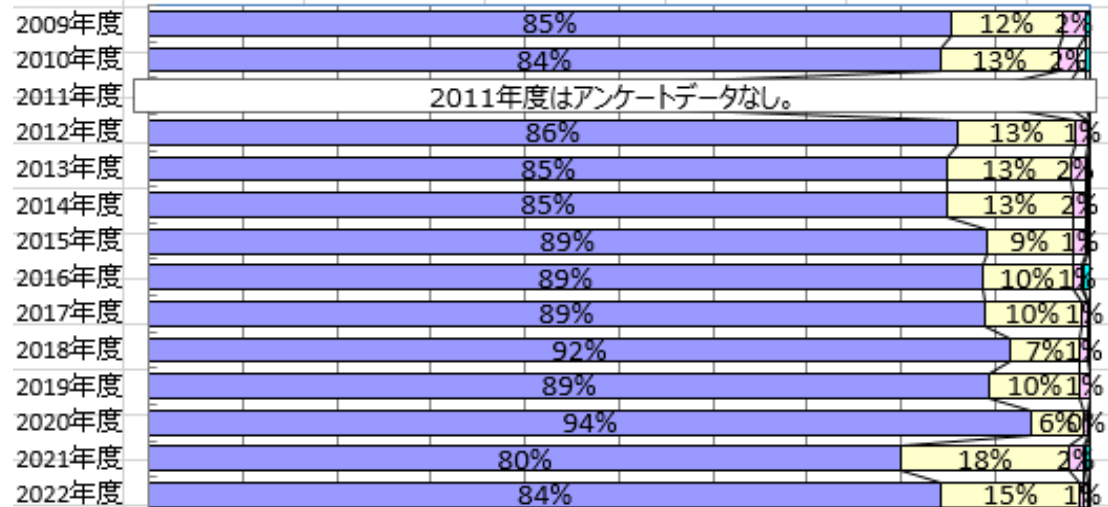
【設問1】

あなたは、日ごろから倫理観を持ち、社会的良識や社会人としてのモラルに従って公正な事業活動の推進を行っていますか？



【設問2】

あなたは、不正を行うことによって引き起こされる事態に対して危機感を抱いていますか？



4-3. アンケートによる評価

26

b. 「地域に対し一人ひとりが約束を果たし続ける」意識

「地域に対し一人ひとりが約束を果たし続ける」意識に関するアンケート結果

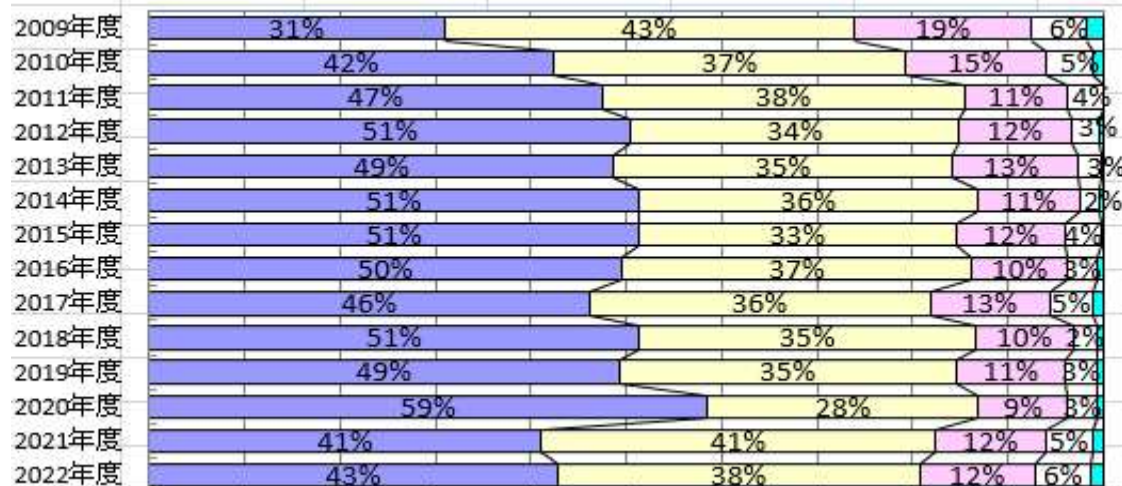
[凡例] ■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらとも ■ あまり思わず ■ 思わない

【設問3】

あなたは、社内の視点だけではなく、社外の視点も意識して業務に取り組んでいますか？※

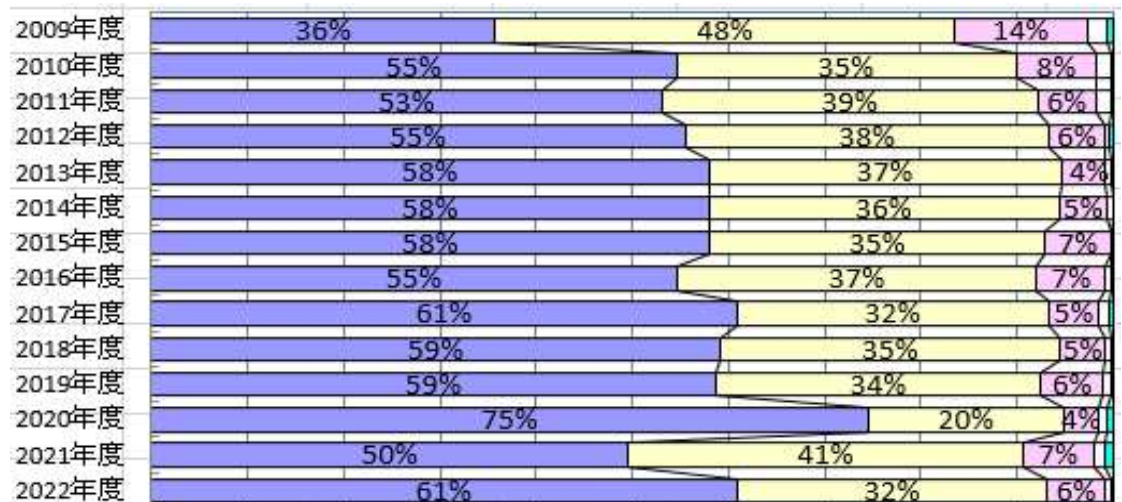
※2016年度までの設問内容

- ・あなたは、社会常識とのズレがないかを意識して業務に取り組んでいますか？



【設問4】

あなたは、自らの業務一つひとつに責任を持って、日々確実に遂行していますか？



4-3. アンケートによる評価

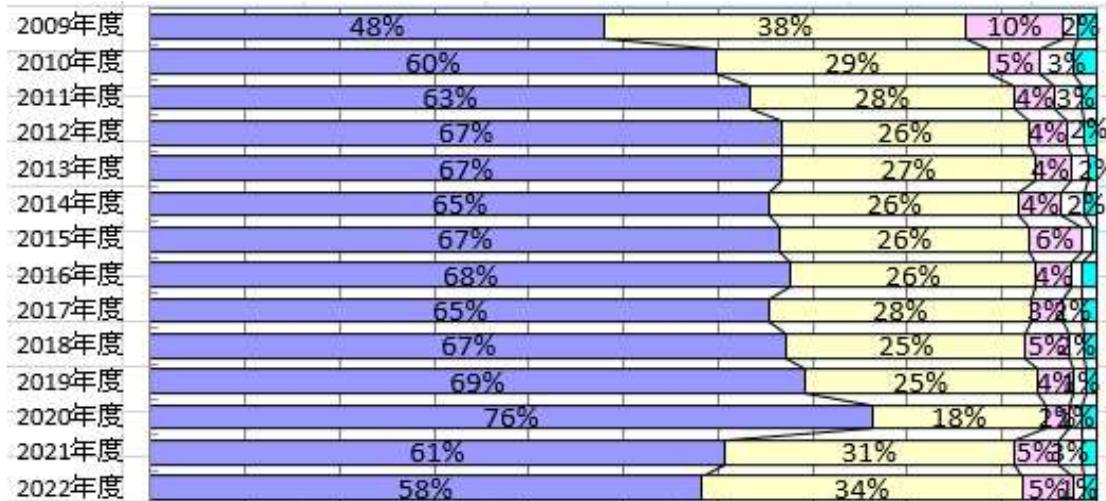
c. 報告する文化

「報告する文化」に関するアンケート結果

[凡例] ■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらとも ■ あまり思わず ■ 思わない

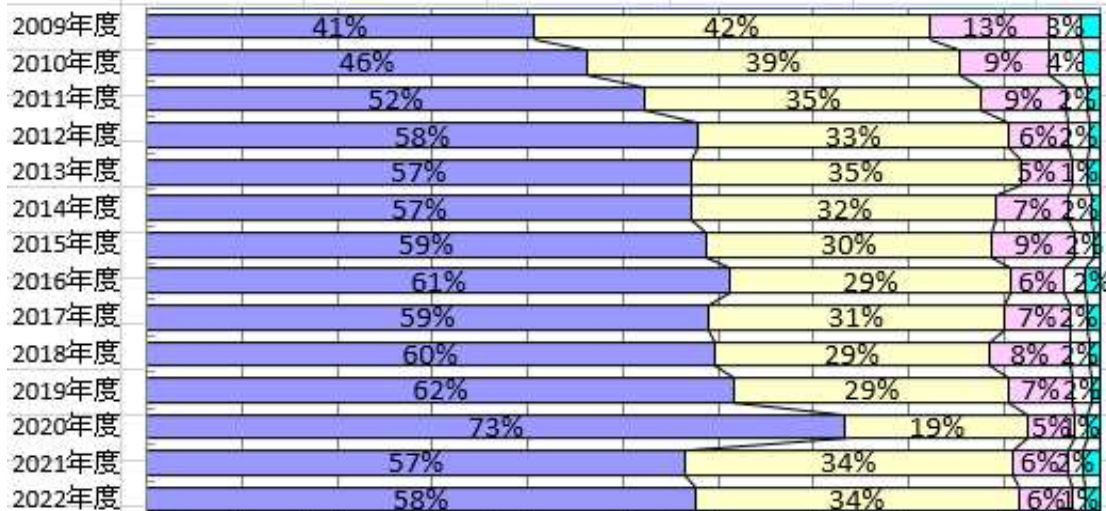
【設問5】

あなたの職場では、都合の悪いデータ・事実でも報告・相談しやすい雰囲気がありますか？



【設問6】

あなたの職場では、おかしいと思ったことは、おかしいと言える雰囲気がありますか？



4-3. アンケートによる評価

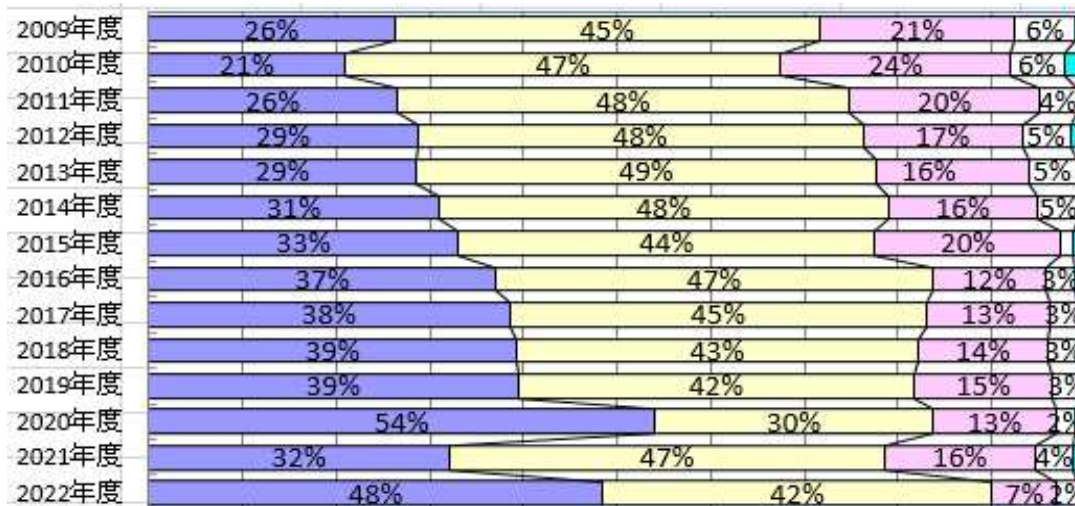
「d. 常に問いかける姿勢」、 「e. 再発防止対策の定着」

「常に問いかける姿勢」に関するアンケート結果

[凡例] ■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらとも ■ あまり思わず ■ 思わない

【設問7】

あなたの職場では、「問いかける姿勢」や「前提条件に疑いを持つ姿勢」をもって、業務を実践するようにしていますか？



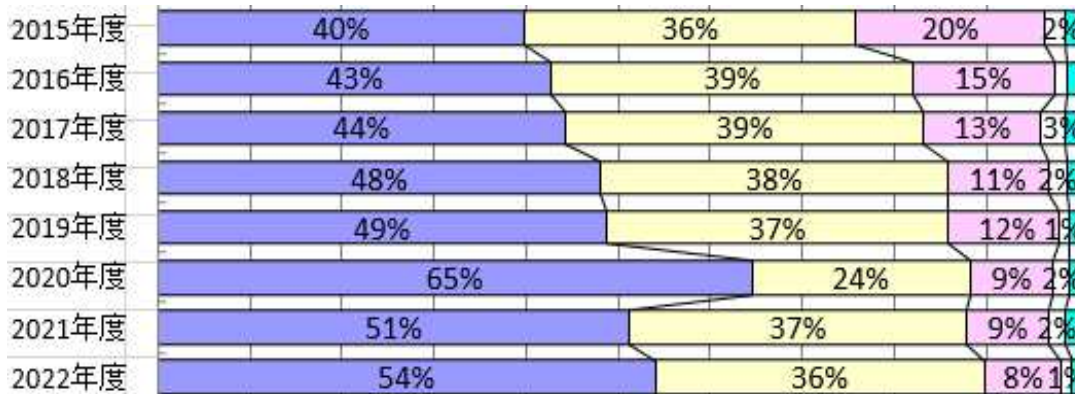
「再発防止対策の定着」に関するアンケート結果

[凡例] ■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらとも ■ あまり思わず ■ 思わない

【設問8】

あなたの職場では、過去に起きた不適切事象(2007年:発電設備の総点検結果、2010年:点検不備問題、2015年:LLW流量計問題)の再発防止対策が徹底されていると感じますか？※

※LLW流量計問題の発生を受け、2015年度から設定した設問。



4-3. アンケートによる評価

f. アンケートによる評価(まとめ)

- 今年度のアンケート結果では、原子力安全文化醸成に関する意識の定着について、前年度に比べて肯定的評価(「そう思う」「ややそう思う」)の割合がおおむね上昇していることから、再発防止対策は全般的に有効に機能しているものと評価する。
- また、「報告する文化」に関する【設問5】を除き、「そう思う」の回答割合が上昇しており、回答者が原子力安全文化醸成について主体的に意識する姿勢がうかがえる。これは、前年度アンケート結果を踏まえた再発防止対策の工夫による成果であるものと考えられる。
- なお、少数意見、特に否定的評価(「あまり思わない」「思わない」)に対しては、それを選択した理由を可能な限り把握し、管理職へのフィードバックや各職場へのフォローを行い、肯定的評価へ変わるよう改善策を講じていく。
- 2023年度の原子力安全文化醸成活動に関する再発防止対策についても、活動計画に基づき確実に実施し、引き続き原子力安全文化醸成の徹底を図っていく。

4-4. 原子力安全文化醸成活動に関する再発防止対策の 2023年度計画(案) (2/3)

2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3. 「原子力安全文化の日」を中心に、安全文化の全社共有および再確認 ・原子力安全文化の日 協力会社への社長訓話動画配布 (社内には動画配信し未参加者は視聴) ・適切な発注業務管理の推進 ・適切な発注業務(請負)に係る教育 ・発注者としての管理責任に関する教育(委託管理) ・請負者に対する適切な受注業務要請			▽ 社長メッセージ発信等 動画の視聴									
4. 適切な発注業務管理の推進 ・適切な発注業務(請負)に係る教育 ・発注者としての管理責任に関する教育(委託管理) ・請負者に対する適切な受注業務要請								教育 教育				
5. 「原子力安全文化醸成計画」に統合し実施する施策他 ・役員と発電所員、本社社員の意見交換 ・安全文化講演会(研修会)			▽ フォロー 状況確認			▽ フォロー 状況確認			▽ フォロー 状況確認		フォロー 状況確認▽	
6. 協力会社への安全文化醸成の関与 ・協力会社に対する表彰の実施 ・当社役員と協力会社社員との対話活動								▽				

4-4. 原子力安全文化醸成活動に関する再発防止対策の 2023年度計画(案)

(3/3)

2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
有効性評価・次年度計画					中間評価			有効性評価・次年度計画				
原子力安全文化有識者会議							▽				▽	

5. 内部監査による再発防止対策の実施状況評価

5. 点検不備再発防止対策の実施状況

点検不備再発防止対策の実施状況

〈結論〉**「監査の結果、再発防止対策を適切に実施していると評価する。」**

実施箇所	内部監査部門
対象箇所	電源事業本部（原子力品質保証、原子力管理）、原子力強化プロジェクト、島根原子力発電所（品質保証部、技術部、保修部）
監査項目	AP 1：直接原因に係る対策 AP 2：原子力部門の業務運営の仕組み強化 AP 3：不適合管理プロセスの改善 AP 4：原子力安全文化醸成活動の推進 AP 5：点検計画表に関する取り組み
確認日	2022年4月1日～2023年1月31日
確認結果	【2022年度の実施状況】 ・再発防止対策について、手順書・AP等に基づき確実に実施していることを確認した。 なお、有効性評価の実施状況は、2023年4月に確認し、APに評価結果として記載する予定。

6. 監視・評価の強化に係る活動の状況および概略

6. 監視・評価活動の状況

○ 協力会社との安全文化醸成活動の意見交換の実施結果

協力会社 8 社の現場の品質保証責任者クラスと「安全文化醸成活動の実施状況」および「意識調査結果を踏まえた助言の検討・対応」に関して意見交換した。

また、当社から原子力安全文化の理解の深化に役立つ書籍や資料の情報提供等を行い、各社の活動の一助とした。（9月～10月）



計画に対する取組み状況の確認
（協力会社の構内事務所）

<意見交換の内容>

- 計画された安全文化醸成活動について、予定どおり実施していることを確認
- 安全文化やコンプライアンスに関する教育について、各社とも定期的に実施しており、教育の不足は確認されなかった
- その他改善（助言内容の充実、意識調査へ設問追加）に関する意見を収集

【今後の予定（2023年3月）】

- 1 1月に実施した安全文化に関する意識調査（アンケート）等を踏まえて、協力会社に対して安全文化の育成に向けた指導・助言を行う